

【吉賀町】 校務DX計画

吉賀町では、国のGIGAスクール構想に基づき、令和3年度から町内全ての小・中学校で1人1台端末を導入し、通信ネットワークの構築やクラウドサービスの積極的な活用等、児童生徒一人ひとりがSociety5.0時代を生き抜く力を育むために必要な環境を整備してきた。

教職員においてもICTの活用を進めているが、学校現場においては依然として紙の資料や従来型の業務が多くみられ、今後の校務の円滑化・効率化の観点から、さらなる校務DXを進めていく必要がある。

GIGAスクール構想の第2期では、下記のポイントを踏まえて環境整備ならびに運用を行うことにより、校務DXを推進していく。

1. 学習と校務ネットワークを一元化

現在、学校は学習用ネットワークと校務用ネットワークの2種類を整備し、ネットワークを分離した運用を行っている。第2期では校務ネットワークを廃止し、フルクラウド/ゼロトラスト環境による校務情報へのアクセス環境を構築する。これにより、教職員が特定の場所に縛られることなく、インターネット環境があればどこからでも仕事ができる働き方(ロケーションフリー)を実現する。

2. 学校サーバを廃止し、クラウドサービスの利活用による校務環境の構築

現在、学校の校務ネットワーク内に構築されたサーバ類(オンプレミス環境)を廃止する。ファイル管理はクラウドストレージを活用し、校務支援システムはクラウドサービス上に構築して運用をおこなう。

3. 学習と校務端末の統合

現行では、校務用端末と学習用端末の2台を活用して業務を遂行している。第2期では、校務用端末を廃止して1台の端末で学習と校務をおこなうことで、更なるデータ利活用を促進する。